行政、商工団体連携し　コロナ禍を乗り切る

市長熱論

佐賀商工会議所
陣内芳博会頭
×
佐賀市
秀島敏行市長

コロナ禍が収束しない中、佐賀市と経済界が連携して地域経済の再生に取り組んでいます。ウィズコロナ、アフターコロナ時代の地域のあり方について、佐賀商工会議所の陣内芳博会頭と秀島敏行市長が熱く語り合いました。

地方の良さアピールの好機

■パンデミックが現実のものに

秀島　佐賀市で初めての感染者が出てから1年が経過しました。この間コロナウイルスに最前線で立ち向かっていただいている医療・福祉関係者の皆さんに心から敬意を表したいと思います。今、私と会頭の間に飛沫（ひまつ）防止のパネルが立っています。こうしたパネルは、市役所の本庁や支所の窓口などにたくさん置いています。これを購入するとき1年以上も使い続けるとは思ってもみませんでした。

いつもなら、今の時期は、佐賀城下ひなまつりで街なかがにぎわっているはずでしたが、残念ながら中止となってしまいました。佐賀市では、この1年間にコロナ関連経費を約52億円計上して、特に経済再生に取り組んできました。また、定額給付金では市内で約236億円供給されました。先日、妻と徴古館にひな祭りの展示を見に行った際、街なかの食堂に立ち寄りましたが、まだまだ厳しい状況だと訴えられました。

陣内　私は、SF小説や映画が好きで、その中で起こるパンデミックは、空想の中の出来事でしたが、それを実際に目の当たりにしてその影響の大きさに驚いています。地元企業の資金繰りについては、国、県、市などの対応が早かったこともあって、苦しい中でも安定しているという印象です。

コロナの経済への影響は、よくリーマンショックと比較されますが、リーマンショックは、グローバル企業への打撃が大きかったのに対し、コロナの場合は、地域の農業や商工業などが打撃を受けており、地域経済への影響は、はるかに大きいと思われます。

苦しい状況の中、支え合いや助け合いの気持ちなど明るい材料も出てきました。県や市でも同様の取り組みがありましたが、商工会議所の青年部はテイクアウトの支援「トリモテ」などを行いました。こういう苦しい時こそ、行政、商工団体と企業が連携して乗り切ることが重要だと思います。

秀島　コロナの収束には、ワクチンの接種が一つの鍵になると思っています。すでに医療関係者から始まっていますが、4月には高齢者への接種が始まります。その際、市民の皆さんには、ぜひおおらかさと寛容さをもってワクチンの接種に臨んでいただくよう、ご協力をお願いしたいと思います。

■DXが加速度的に進む

陣内　コロナ禍の中、DX（デジタルトランスフォーメーション）が注目されてきました。例えばコロナの時代になって、テレビがよく売れているとのことですが、目的はいわゆるテレビ番組を見ることではなく、ユーチューブやアマゾンプライムなどの動画サイトに接続して見るためなのだそうです。私が銀行で長くSE（システムエンジニア）としてコンピューター業務に携わっていた経験から言いますと、大上段に構えることはなく、身近な課題を解決していく中でDXの推進を考えればよいと思います。身近な例では「WEB上での陶器市」が顕著です。

私が心配するのは、DXという言葉が独り歩きして、ITの専門家を社内に育成しなければとか、莫大な投資が必要になるとか、経営者自らがDXに強くならなければならないとかで二の足を踏んでいるのではないかということです。経営者に必要なのは、物事がどう変わっていくのか、今何を変えなくてはいけないのかをしっかり見極めることだと思います。

秀島　55年前、私が市役所に入ったころの必需品はそろばんでした。電卓が出てきた時には、便利になったなと感じました。今は、情報の精度は別として、辞書もいらない時代です。DXは、行政でも取り組んでいます。市役所の仕事は基本的に対面式ですが、対面式でない部分も必要になってきました。これからはそれが当たり前の世界になってきます。

学校教育も1人1台のパソコン配布でデジタル化が急速に進みますし、子どもたちはそういう時代を経験して社会に出てきます。そんな中で佐賀市の強みは、マイクロソフトAI&イノベーションセンターがあることです。昨年、クラウドプラットフォームとしての「アジュール・ベース」の直営拠点を東京の代官山、大阪市と佐賀市に置くと発表がありました。日本マイクロソフトのスタッフの皆さんが熱心に対応いただいているのがありがたいです。

（左面へ続く）

DXで身近な課題解決へ

■官民が協力してプロスポーツの普及促進

秀島　コロナで不要不急の外出が制限され、家庭内での不和や虐待などの報道が増えてきていると感じています。家庭裁判所や行政での相談でも家庭内のトラブルが増えているようです。心のゆとりや安らぎがないことが原因ではないかと思いますが、こういう時こそ希望の持てる明るい話が必要だと思います。それが、スポーツや芸術などいわゆる文化だと思います。特に佐賀市をホームタウンとするバスケットボールの「佐賀バルーナーズ」やサッカーJ1の「サガン鳥栖」などプロスポーツチームはコロナによって大きな打撃を受けています。こうした中、いち早く経済界でプロスポーツチームを応援しようという組織をつくっていただきました。行政としても一緒になって応援させていただきたいと思っております。私はこういう時代だからこそ、毎日の生活を楽しむ仕組みが重要だと思います。

陣内　「サガン鳥栖AID」という団体を12月につくりました。サガン鳥栖はJ1で連続10年目のシーズンを迎えます。よくここまで頑張ってきたと思います。運営会社は経営的に厳しい状況です。我々にどこまでできるか分かりませんが、今シーズン何とかしないとサガン鳥栖につらいことが起きてしまい、子どもたちの夢や希望を奪ってしまいかねません。U－15やU－18は日本一に輝いています。ぜひ応援をと思っています。

まず緊急事業としてユニフォームロゴ「PRIDE of 17」への寄付を通じたサガン鳥栖支援を始めました。やってみて、サポーターのすそ野の広さ、反応の速さに驚いています。サガン鳥栖が地元で愛されていることを肌で感じています。一過性に終わることなく継続的にサガン鳥栖を応援していくことが大切だと思っています。サガン鳥栖は県内だけでなく筑後地方にもファンが多いんですよ。秀島市長の温かい言葉を力に頑張っていきたいと思います。

秀島　行政がプロスポーツを応援することに批判もあるのは事実ですが、応援する町の宣伝につなげることもできますし、そうする中で感動、喜び、希望がもらえたらと思っています。

陣内　佐賀市のバルーン大会がこれだけ定着したのは、パイロットと観客の距離が近づいたからだと思います。サガン鳥栖も、選手やスタッフと子どもたちの距離が近くなればおのずと親もついてきて盛り上がっていくと思います。

■アフターコロナ、ウィズコロナの時代

陣内　コロナによって変わったもの、例えば生活様式であったりデジタル化だったりということは、当然ながら元に戻ることはないと思います。しかしコロナで起こっていることが必ずしも悪いことばかりではないと思います。都会で暮らしている人がもっと「密」でない世界、すなわち地方に目を向けるようになると思います。そうなると地方のチャンスと言えます。人と人のつながりがしっかりとできている社会をどうつくっていくかが行政、商工団体、企業に与えられた課題ではないかと思います。ぜひ一緒にやっていきましょう。

秀島　マイクロソフト社が2016年10月に佐賀市に来てから既に16社のIT系企業が進出をしてきました。IT系企業ということは、若い人たちが佐賀市に来るいい機会になっているということです。コロナでテレワークが進み、遠く離れていても仕事ができる時代になってきました。こうなると、オフタイムに地元で楽しむことができる地方都市は大変有利です。生活環境に優れた佐賀市に都会から移住者が増えるきっかけができるよう首都圏など大都市に佐賀市を売り込んでいきたいと思います。

次世代へつなぐ　佐賀市のまちづくり

Microsoft AI& Innovation Center Saga

（マイクロソフトＡＩ＆イノベーションセンターサガ）

マイクロソフトAI&イノベーションセンターは2016年、ＪＲ佐賀駅から歩いて５分のiスクエアビル5階に設置されました。施設は、セミナールームのほか、オープンタイプのコワーキングスペースと個室タイプのシェアオフィスを備え、デジタル人材育成のためのセミナーの開催や、起業家の支援も行っています。

この施設は、日本マイクロソフトと佐賀県、佐賀市、佐賀大学のほか、地元のIT企業などが連携して運営にあたっています。

この施設が設置されて以来、IT系企業の佐賀市への進出が増加しており、こうした企業で働く人材の育成も重要な役割となっています。

日本マイクロソフトは、国内に3カ所の直営のクラウドサービス発信基地「Azure Base（アジュールベース）」を備え、代官山（東京）、大阪市と並んで、佐賀市もその拠点の一つです。

佐賀市のｉスクエアビル５階に設置された「マイクロソフトＡＩ＆イノベーションセンター」

佐賀市新型コロナウイルスワクチン接種対策室

室長　**高柳 栄子さん**

個別接種と集団接種を併用

新型コロナウイルスワクチン接種が、医療従事者から始まりました。市民向けとしては、佐賀市は、４月中旬以降、65歳以上の高齢者施設入所者から接種を始める予定です。その後75歳以上、65歳以上と国が定めた優先順位ごとに接種を開始しますが、接種時期や予約時期については市報などで随時お知らせしていきます。

接種方法は、佐賀市では、医療機関で行う個別接種と特設会場で夜間や日曜日に行う集団接種を併用するため、都合のよい方を選ぶことができます。集団接種を市民全体に行うのは、前例がないので、混乱なくスムーズに進むようシミュレーションしながら準備を進めているところです。また、個別接種に協力いただく医療機関数も約100にのぼる見込みなのでかかりつけ医などで安心して受けることができます。接種するためには完全予約制のため、予約が必要です。予約先や接種会場は５月中旬に市報などでお知らせします。対象者には段階ごとに市から接種券や説明書を郵送しますので接種する日まで大切に保管していただきたいと思います。説明書の内容をよく読んで、予診票を自宅で正確に記入していただくことがスムーズに接種するためにとても重要です。皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

新型コロナウイルスワクチン接種についての問い合わせ先

佐賀市

接種手続きに関すること
電話：0952(27)8755
FAX：0952(40)7295
受付時間：平日午前９時～午後５時

佐賀県

接種後の副反応など医学的な問い合わせ
電話：0954(69)1105
受付時間：午前８時半～午後５時
（土日･祝日も実施）

筆談での相談
FAX：0952(25)7268
受付時間：平日午前８時半～午後５時

外国人向け（多言語相談）
電話：092(286)6823
受付時間：午前８時半～午後５時
（土日･祝日も実施）

国（厚生労働省）

予防接種に関する不安や疑問などの問い合わせ
電話：(0120)761770（フリーダイヤル）
受付時間：午前９時～午後９時
（土日･祝日も実施）

県地域産業支援センター

副理事長　**石橋 正彦さん(63)**

ＤＸはスモールサクセスの積み重ねから

石橋 正彦さん

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、さまざまなデジタルツールや通信手段を使って新しい価値やサービスなどを生み出すことです。県内でも導入の動きが出てきてはいますが、まだまだ進んでいるとは言いがたい状況です。「知識がないから分からない」「コストがかかるのでは」と、不安感を持つ経営者が多いことも進まない理由の一つだと思います。しかし、コロナ禍の状況で、リモートワークやオンライン会議などが一気に普及したことを見ても、DXはもはや「やるしかないもの」であることを肝に銘じなければいけません。

経営者にいつもアドバイスするのは、「一度にすべてをやろうとは思わないで」ということ。どの企業も多かれ少なかれ、「もう少しこうだったらいいのになあ」という課題やちょっとした困りごとがあるはずです。まずはそこを洗い出し、デジタルを活用した解決につなげていく。そうしたスモールサクセスを一つずつ積み重ねていくことがDXへの第一歩です。

DXを進めるためには、いろんな技術やノウハウがつながることが必要です。幸い、県内は経営者同士が顔見知りということも多く、つながる土台がしっかりできていて、大きな強みとなっています。DXは難しく考える必要はなく、これからの経営に必須のものです。世の中の動きに乗り遅れないよう、強みを生かしてつながれるよう支援していきたいと思います。

サガスポーツクラブ

取締役　**田畠 寿太郎さん(48)**

スポーツで佐賀のまちを元気に

田畠 寿太郎さん

佐賀市で初のプロスポーツチームとなるバスケットボールチーム「佐賀バルーナーズ」を運営する、サガスポーツクラブに携わっています。世界のスポーツ人口で最も多いのはバスケットボール。佐賀市内でも、小学生から高校生までバスケットに親しむ子どもたちは多いのですが、その後の受け皿がありませんでした。佐賀市にプロチームができたことは、子どもたちの目標になり、具体的なあこがれの存在になったと思います。

地元で行われる試合を見た子どもたちの表情はきらきら輝いていて、みんなが会場で一体となってバルーナーズを応援する姿を見ると、こちらも元気づけられます。スポーツには人を一つにし、元気づける力があると思います。４月からはユースチームも本格的に始動するので、応援してもらいたいですね。

私は中心商店街で商売をしているので、まちなかのにぎわいづくりにも深く関わっています。コロナが落ち着いたら、バルーナーズの試合をきっかけに佐賀を訪れる人も増えると思います。佐賀のまちを歩いてよいところを発見し「また来たい」と思ってくれるようなまちづくりを、行政や市民の方々と一緒になって取り組みたいと思います。